

2024 年 8 月 20 日第 160 回運輸政策コロキウム～ワシントン・レポートXX
奥田専務理事 開会挨拶

皆様、おはようございます。

紹介がありました、専務理事でワシントン国際問題研究所長の奥田でございます。

本日はご多用の中、多くの皆様にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

この、運輸政策コロキウム「ワシントン・レポート」は、ワシントン国際問題研究所の研究員がその研究成果を発表する場として2019年3月にスタートを致しまして、今回で20回目を迎えます。

20回目となります今回は、米国の航空分野に関する2つのテーマについて研究発表をさせていただきます。

世界の航空分野におきましては、2020年初頭からのコロナ禍による深刻な影響を受けましたが、その航空需要は、2021年後半から回復傾向を見せはじめ、2024年2月には2019年の水準を上回りました。

特に米国の航空市場は、国内市場の力強さを背景に、世界の他の地域に先駆けて、国内市場・国際市場ともにいち早く回復が進んでおります。

そこで、本日は、まず、福原主任研究員から、「アメリカ航空産業の現状と今後の展望」と題しまして、米国の航空産業の回復状況とその前後の質的な変化をご報告するとともに、最新の動きを踏まえた今後の展望について、ご報告させていただきます。

続きまして、萩原研究員から、「米国空港における民間参画の取組と今後の展望」と題し、米国の空港における、民間セクターの参画状況や、連邦政府の関連プログラムなどを整理し、米国特有の事情や課題を洗い出した上で、今後の米国空港市場への民間参画の展望を報告致します。

本日のコロキウムは、私ども運輸総合研究所の屋井所長にコーディネーターを務めていただき、各報告の後、福原主任研究員の発表については屋井所長から、萩原研究員の発表については東京工業大学の花岡教授からそれぞれコメントを頂きます。

なお、皆さまご案内かと存じますが、花岡教授は、開発途上国・新興国の問題を交通・物流分野から解決する「交通開発学」の観点から各国の航空政策や空港計画などを研究しておられまして、また、当研究所の運営委員会委員もお務め頂き、日頃より何かとご助言を賜っております。

お二人からのコメントの後、皆様との質疑応答の時間も設けさせて頂きながら、本日のテーマに関し、議論を深めることができれば、と思っております。

本日の運輸政策コロキウム・ワシントンレポートが、ご参加いただきました皆様にとりまして、真に有益なものとなりますことを期待し、私からの開会のご挨拶といたします。

本日は、ご参加をいただき誠にありがとうございます。